

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子どもと手作り遊び						授業形態		演習	
科目コード	750046	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	吉田 健								ICT活 用	○
授業概要	子どもとは何なのか、遊びとは子どもにとって何なのか、遊びについての本質を探り、追求する。児童期の表現の特質を理解し、その中にある造形的側面を探り出すことをねらいとしている。豊かな表現を援助するために、指導者に必要とされる基本的な知識や技能を具体的な作品制作を通して学ぶ。講師の長年の子どもへの造形指導の経験をもとにあらゆる表現素材を使い、それらの特性を生かした造形遊びの楽しさを学ぶ。その体験から子どもに対する援助力を高める。現場で自身の様々な対応能力が発揮できるようスキルを身に着けるために自主性ある学習として捉えたい。									
関連する科目	保育内容指導法（造形表現） 教科教育法（図画工作） 図画工作演習 図画工作									
授業の進め方 と方法	この科目は制作演習を中心として行われる。遊びの中のものづくりを通して、子供の表現を疑似体験していく。身の回りの素朴な素材を使ってもものづくりを行う。身近な新聞紙や段ボールなどの紙類、紐、家庭から出るプラスチック類、箱などを用いる。歴史的な遊びについても研究し、実際それらの制作、模倣、創作へとつないでいく。地域的な内容や、身体的、音楽的要素も取り込んだ遊びにもも広げていく。情報収集として、各自のPC を使い、ICT活用をはかる。写真や動画などの記録として活用していく。個人の制作からグループによる共同制作にも取り組む。コミュニケーションを深め、共同制作による作品化を行う。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション 遊びについて （道具、服装など）									
授業計画 【第2回】	子どもの遊びについて 地域的な、歴史的背景、昔ながらの遊びを探索する。 ・紙風船、あやとりなど ・鬼ごっこ、ままごと									
授業計画 【第3回】	自分の体験を引き出そう。（レポートにまとめる） ・図や写真を入れて解説していく。									
授業計画 【第4回】	素材を生かして作ろう（紙素材） ・折り紙、切り絵、ちぎり絵									
授業計画 【第5回】	素材を生かして作ろう（段ボール） ・箱作り									
授業計画 【第6回】	素材を生かして作ろう（竹素材） ・竹とんぼに挑戦 ・箸や楊枝を作ろう。									
授業計画 【第7回】	作って遊べる玩具制作① オリジナルを作ろう ・身近な材料を使って、平面的なものから作ろう。									
授業計画 【第8回】	作って遊べる玩具制作② 作ってあそぼう、立体的なものへの発展。									
授業計画 【第9回】	作って遊べる玩具制作③ オリジナルな、自分だけのおもちゃ作りに取り組もう。									
授業計画 【第10回】	作って遊べる玩具制作④ 自己制作を推し進め、完成度を上げる。 アイデアを生かし、色々と挑戦しよう。									

授業計画 【第11回】	作って遊べる玩具制作⑤ 他の人のものを見学しながら、学ぼう。
授業計画 【第12回】	他の人と共同でできるものに挑戦しよう。 □
授業計画 【第13回】	作って遊べる玩具制作⑦ 共同制作 共同作品を完成まで仕上げよう。
授業計画 【第14回】	作って遊べる玩具制作⑧ これまでの作品を意見交換しながら、遊びを共有しよう。
授業計画 【第15回】	作って遊べる玩具制作⑨ 発表会の実施と反省を、レポートとしてまとめる。
授業の到達目標	授業の達成目標□ ・ 幼児期の造形表現の理解と、指導上の観察力と援助力を身に着ける。 ・ 演習を通して発想力、創作力を高め、授業現場で子どもの理解と指導力の向上を図る。 ・ イメージから実際の作品に具体化していくことで、教育現場で身に着けた力を発揮できる技術を磨く。 ・ 地域素材に目を向けて、身近な材料から創作する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	遊びについて思い出そう。先人に聞いてみよう。経験したこと、聞いたことをまとめておこう。 道具・材料を準備する 身近なものをスケッチする。(約1時間)
授業時間外学習【復習】	学修した様々な要素を次作に生かそう。 自宅で政策を継続、発展させる。 スケッチを行う。(約1時間)
課題に対する フィードバック	アイデアスケッチからの取り組みの流れを重視する。 作りながら、改善していくことを推し進める。 グループ制作では個人の参加の在り方を実践評価とし、個人評価に組み込む。
評価方法・基準	実技課題への取り組み、課題提出の評価、レポートや提出物の採点によって評価 授業中の参加態度40%、提出課題30%、実践レポート30%とする。
テキスト	テキストは使用しないが、必要に応じて参考となる資料を提示する。
参考書	参考資料は抜粋要約してプリントを配布する。 ・ 『幼稚園教育要領』：文部科学省 ・ 『保育所保育指針』：厚生労働省 ・ 小学校学習指導要領解説 図画工作編：文部科学省
備考	実技演習ができる服装が望ましい。(準備内容については、事前に予告する。)